

第4学年1組 道徳科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 主題名及び教材名

主題名「誰に対しても公平に」

C13【公正、公平、社会正義】誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

教材名「となりのせき」（東京書籍）

2 主題設定の理由

内容項目の解釈
<p>「公正、公平、社会正義」の公正とは、偏りがなく正当なことであり、公平とは、判断・行動に当たり、いずれにも偏らず公平な態度で接することである。また社会正義とは、人として行うべき道筋を社会に当てはめた考え方である。不公平な言動をとってはいけないと理解しつつも、自分の仲間を優先し、自分の好みで相手に対して不公平な言動をとってしまうことも往々にしてある。そのような、自分と異なる感じ方や考え方をもつ相手に偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在に対する優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりといった人間の弱さを自覚することが価値理解には大切である。自分の不公平な行動が人間関係や集団生活にどのような負の影響をもたらすかを考えさせることを通して、自身の弱さを乗り越え、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようとする態度を育てていくことが重要である。さらに、自分の公正、公平な態度が人間関係を円滑にすることを理解させ、よりよい学級集団を作っていくようとする心情を育てたい。</p> <p>C13「公正、公平、社会正義」については、低学年で「自分の好き嫌いとらわれないで接すること」について学習してきた。これを受けて本主題では、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平に接しようとする態度を育てる。このことは、高学年での「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」の学習へと発展していく。</p>

児童の実態	教材の分析
<p>本学級の子どもたちは、誰にでも思いやりの心をもつ事が大切であると考えている。しかし、自分のその時の感情や好みで人への態度を変えたり、それが元でトラブルになったりすることが多い。</p> <p>そこで、誰に対しても分け隔てをしないで接することの大切さを理解できるようになるこの期に本主題を取り上げる。そして、自分の不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、誰に対しても公正、公平に接しようとする態度を育てたい。</p> <p>このことは、公平、公正の価値を感得させるとともに、自己の生き方を見つめる子どもを育てる上でも意義深い。</p>	<p>本教材「となりのせき」は、学級の席替えで、苦手に思っているたけしと席が隣になった主人公のももが、相手に対して不公平な言動を取ってしまうが、その後、自分の取った態度について考える話である。「ええ、なんでわたしが。」と言ったことで、たけしや周りの友達に負の影響を与えてしまったももは、家でお母さんと話しながら、「もっと大事なこと」について考える。ももの心情や周りへの影響について考えさせることで、自分の感情や好みで不公平な態度を取ってしまう弱さをとらえさせるとともに、誰に対しても公正、公平に接することの価値をとらえさせるのに適した教材である。</p>

3 本時のねらい

<p>自分の感情や好みで不公平な態度を取ると、人間関係や集団生活に負の影響をもたらすことから、公正、公平であることの大切さが分かり、誰に対しても分け隔てをせずに公正、公平に接しようとする態度を育てる。</p>
--

4 本時学習の工夫点

【つかむ段階】	【見出す段階】	【見つめる段階】
<p>事前アンケートの結果をもとに、不公平な態度をとってしまうことがあるという課題をもたせ、本時学習のめあてをつかませる。</p>	<p>「広げる問い」で、不公平な態度を見た周りの心情を考えさせた後、「深める問い①」で、不公平さがもたらす負の影響から公平に接することの大切さにせまり、「深める問い②」で、「大事なこと」について考えさせ、公正、公平の価値について考えを深めさせる。</p>	<p>誰にでも公正、公平に接する大切さについて自分との関わりで考えさせ、これまでの自分を振り返らせ、これからの自分の展望をもたせる。</p>

5 計画

事前（課外）	道徳科（本時）	事後（課外）
<p>アンケートにより、学校や学校以外での公正、公平な行動についての経験を想起させる。</p>	<p>教材「となりのせき」を通して、公正、公平な心について学習させる。</p>	<p>日常生活において、公正、公平に接することができたことを紹介し合わせる。</p>

6 展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	<p>1 事前アンケートの結果をもとに、これまでの経験を想起し、学習のめあてについて話し合う。</p> <p>〈相手により 態度を変えなかったこと〉 〈相手により 態度を変えたこと〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 友達の言い分を聞いて、○○さんだけを攻めたりしなかった。 </div> <div style="font-size: 2em;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 相手の話を聞かず、いつも仲のよい友達の味方をしてしまった。 </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 友達と接するとき大切なことを考えよう。 </div>	<p>○ 問題意識をもたせるために、事前アンケートをもとに、公正、公平に接することができたこととできなかったことを想起させ、価値の方向性をつかませる。</p> <p>○ 本時学習のめあてをつかませるために、公正、公平にできた自分とできない自分があることをとらえさせ、うれしくなることができたときの心を問う。</p>
見出す	<p>2 教材「となりのせき」をもとに、公正、公平についての価値理解を深める。</p> <p>(1) 教材を読み、場面の状況を把握し、席替えがあったときのももの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たけしさんはおせっかいで、あまり好きじゃない。 ・違う人だったら良かったのに。 ・たけしさんの隣の席なんて、本当についてない。 <p>(2) たけし役と周囲の友達役となって役割演技を行い、ももの言動が周囲や今後にどのような影響を与えるのかを話し合い、自分の考えを広げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> たけしさんや周りの友達はどうな気持ちになったでしょうか。 【広げる問い】 </div> <p style="margin-left: 20px;">〈たけし〉・傷つく。 ・学校に来なくなる。 〈みんな〉・ももやたけしをいじめる。 ・けんかばかりする。 ・楽しくない。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> このままだったら、このクラスはどんなクラスになるでしょうか。 【深める問い①】 </div> <p style="margin-left: 20px;">〈引き起こされる負の影響〉 ・けんかばかりおきる。 ・嫌な雰囲気になる。 ・だれも楽しくないクラスになる。</p> <p>(3) お母さんが言った言葉について、ももがどのようなことを考えたのかを話し合い、誰にでも分け隔てなく接することの大切さについて価値理解を深める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> お母さんの言った「もっと大事なこと」とは何でしょうか。 【深める問い②】 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> どんな人にも、差別せず同じように接すること </div>	<p>○ ももの心にある差別的な心情に共感させるために、たけしに「ええ、なんでわたしが。」と言ってしまった時のももの気持ちについて考えさせる。</p> <p>【広げる問い】</p> <p>○ ももの言動が、人を傷つけたり差別的な雰囲気や嫌な雰囲気をつくってしまうことをとらえさせるために、役割演技を行わせ、周りの人たちの気持ちや起こりうることを共感的に問う。</p> <p>【深める問い①】</p> <p>○ ももの一言が、今後の学級や友達関係にも負の影響を及ぼしてしまうことをとらえさせるために、このままだったらどんなクラスになると思うかを仮定的に問う。</p> <p>【深める問い②】</p> <p>○ 一人一人が誰にでも公正、公平に接することで、よりよい人間関係や学級集団を構築できることに気付かせ、公正、公平の価値について理解させるために、「お母さんの言ったもっと大事なことは何だろう。」と分析的に問い、吹き出しに書かせる。</p>
見つめる	<p>3 本時で明らかにした公正、公平の価値をもとに、自己の生き方についての考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段仲のよい友達以外とも協力して、仲よくしていきたい。 ・苦手な友達でも嫌と思わずに、優しくしていきたい。 ・どんな友達にも思いやりを持って接し、よりよい学級にしていきたい。 	<p>○ 自分との関わりで考えを深め、実践意欲をもたせるために、本時学習をする前の自分を振り返らせ、公正、公平に関わる説話をを行う。</p>

C13【公正、公平、社会正義】「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること」
 教材名「となりのせき」（東京書籍）

女の子が言葉がた 返す
 受け止める
 友だちと接するときに大切なことを
 考えよう。

となりのせき

もも
 ほかに人たちが
 みまさんかあがた
 せに、なにかあがた
 もつ度したい
 たけしは、えい、や
 なんて、わたしは、か
 たけし、えい、の
 こころが、なにか、な

たけし
 なんで、えい、に
 ますこと、思わなかな
 楽し
 人の、気持ちを、えい
 つて、ない

みんな
 かわいそう
 けい、えい、で
 見ると、えい、や
 身も、えい、な
 しな、えい、は、か、た
 どちらも、えい、な

「ええ、なんで
 わたしが。」

けんが、かり
 来る、たけし、や
 休む、えい、か、ま
 や、えい、の、えい、な
 仲、えい、な、クラス

お母さん
 「でも、いらいするを知らなかった、自分が苦手だった
 けれど、ふんぞりていも、いらいの、もつこと、だいたい、えい、な
 があつて、えい、な。」

苦手でもクラスの大切な人
 苦手な人ともながよく、回す
 言わな
 「しな、えい、な、えい、な
 区別、差別、えい、な、ない

主な発問

○つかむ

人によって態度を変えたり、嫌な言葉をかけてしまつたりしたことはありませんか。

「人によって態度を変えたり、嫌な言葉をかけてしまつたりすることもあるけど、うれしいことができたときもあるね。そのとき、みんなの中にはどんな心があつたんだろう。」

友達と接するときに大切なことを考えよう。

○見出す

「ええ、なんでわたしが。」と言つてしまつたとき、ももはどんなことを思っているのでしょうか。

その後、どうなつたのでしょうか。このクラスの周りの友達になつて聞いてください。

役割演技を行わせ、たけしや周りの友達の気持ちを考えさせる。

(もも・教師 たけし、周りの友達・児童)

【広げる問い】

ももが「ええ、なんでわたしが。」と言つたことで、たけしさんや周りの友達はどんな気持ちになつたのでしょうか。

たけしや周りの友達の気持ちを、ノートに書かせる。全体で、考えたことを話し合わせる。

【深める問い①】

このままだつたら、このクラスはどんなクラスになるのでしょうか。

全体で、考えたことを話し合わせる。

【深める問い②】

こうならないために、お母さんの言つた「もつと大事なこと」とはなんのでしょうか。

どんな人にも、差別せず同じように接すること

○見つめる

今日の学習で学んだことをもとに、これからどんな自分でありたいかを考えましょう。

○成果と課題・改善策（◎成果，●課題，→改善策）

【つかむ段階】

◎事前アンケートを活用したことで、友達と接するときに必要な心を見つけるというめあてを、自分事としてつかませることができた。

【見出す段階】

〈広げる問い〉

◎「広げる問い」で、周りの友達がどんな気持ちになったかを問い、自分から周囲へ視点を変えさせたことで、周囲へ様々な負の影響が起こることをとらえさせることができた。

●「広げる問い」の前の段階で、主人公の「嫌だな」という弱い心に十分共感させることができていなかったため、「広げる問い」の段階で主人公に対し批判的な思考になってしまい、自分たちにもそういうことがあるという考えにならず、自分事として考えさせることができなかった。

→「広げる問い」に入る前に、主人公の弱さに十分共感させ、必要に応じてアンケートに戻り自分を介して主人公の心情を考えることができるようにする。

〈深める問い〉

◎「深める問い②」で、「もっと大事なことは何だろう」と分析的に考えさせることで、よりよい人間関係や学級集団を築くための、公正・公平の価値にせまろうとすることができた。

●「深める問い①」で今後の学級がどうなるかを仮定的に考えさせたが、周囲への負の影響に意識が行き過ぎてしまい、「深める問い②」の段階で自分が我慢することに思考が向き、価値をとらえさせることができなかった。

→「広げる問い」の前段階で、主人公の弱い心に十分共感させ認めた上で、「深める問い②」で主人公と周りの双方に意識が向くような補助発問を行い、自分も周りも無理をせずよい関係となるための心の持ちようを考えさせ、価値理解につなげることができるようにする。

〈表現活動〉

◎役割演技を行い実際に役になりきらせることは、相手の立場に立って考えさせたり、自分の発言でどんな影響があるのかを考えさせたりする上で有効だった。

【見つめる段階】

◎これから自分がどうしていきたいかを考えさせることで、今後の実践意欲につなげることができた。

○表現活動，対話の様子

【考えをノートに書く】



【役割演技】



【全体交流】



○子どものノート

【広げる】

見た人の気持ち
・どっちもどっち
・小さいことでけんかしなり
・いやになる
・見てるだけでイヤ
・楽しくない
・みんなの気持ちを考えてよ
・なんでこんなことに
・きずつくと思わなかったの
・楽しいかない
・人の気持ち考えて
・ついてない
・かわいそう
・けんかししないで
・見てるほうがいい
・や
・しなればよか
った

【深める】

これからどうなるか予もう、
来るだけで、ヤな気もちのままつづいてけんか
があきすくなっているって、1日ら回りはあまる
こんなクラスだったら
よくケンカする
・やさし心が消える
・休む人がふえる
・友達か、へって行く
・じゃん→いじだ
・みんなが知らな人みたい

【価値理解～見つめる】

4の1でこういうことがおこらないように
なると苦手な人で差別古くない。
ふりがえり
今日大切だと思っ、たことは苦手な人にも差別を
しないことだと思いました。これから区別
差
別をしないようにしたいと思はしました。